

～ 短期集中の“うめ収穫”から農福連携を開始 ～



収穫期の“越の梅”と選別作業



“越の梅”の梅エキスと梅干し(ラベル貼りも連携)



いちごハウスでの作業

経緯

- 水稲、小麦及びそばと園芸作物（うめ、もも、いちご）を家族経営。
- うめの収穫は、6月下旬頃から短期間で集中的に行う必要があるが、近年は、人手不足により収穫が遅れ品質が低下する等の課題があった。
- 新潟県三条地域振興局から「うめの収穫等を農福連携で取り組んではどうか」との提案があり、平成30年6月から「新潟県農作業受託サポーター配置事業」を活用し、うめの収穫・選別・袋詰め作業について農福連携の取組を開始。
- 障がいを持つ家族がおり、「以前から農業で障がい者の活躍の場も必要」と考えていた。

取組

- うめの収穫等は「農福連携の下でスムーズに作業ができる」という自分のイメージどおりに自然に取り組むことができ、適期に短期間で収穫することで品質向上につながった。
- いちごの定植等の作業も、即戦力として活躍。丁寧で一生懸命に作業してもらい、家族やパートの負担軽減になっている。
- 作業には、福祉事業所の支援員が同行してくれるので、安心して任せることができた。
- うめは、梅エキスや梅干しに委託加工し販売。



今後の展望と課題

- 体調面を考慮しながら、太陽を浴び、土に触り、自然と触れ合える作業を増やしたい。
- 「農業が障がい者雇用の場としてのモデル」となるよう、今後も地域に根ざした農福連携の定着を目指したい。